



第 22 回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

特選 全国公民科・社会科教育研究会会長賞

## 祖父から学んだ投資の知恵

愛媛県・愛媛県立松山西中等教育学校 5年 早川 颯

私の祖父は、投資に関して若いころから興味を持っており、自分や家族のための資産を早くから株式投資によって築いてきたそうで、それゆえに私が小さいころからお金の使い方や貯金の仕方には、周りの人の中で誰よりも口うるさく言われてきた。こういったこともあってか、私が中学生のころには、日々の中で経済に関して疑問に思ったことを祖父に聞いてみたり、祖父の精通している投資の分野に徐々に興味を持ち始めたりしていた。そんな祖父は、私にとって単なる家族の一員ではなく、経済や投資について教えてくれる身近な経済学者でもあった。私はただ祖父から投資の知識だけを学んだのではなかった。

高校に入学したばかりのころ、私は新しい環境に戸惑い、<sup>あせ</sup>焦りを感じていた。友人関係、勉強、自分の進路について、全てが新しい挑戦であった。自分の将来や学校生活に不安を感じる中で、いつも祖父の言っていた言葉が頭をよぎった。「投資で一番大事なのは、信じて待つことだ」と。

祖父は長年投資に携わってきた。だからこそ、株価が下がったときでも焦らずに信じて待つことで、やがては良い結果が得られることを知っており、常に私に言っていた。当時の入学したての私は、その言葉の意味を深く理解してなかったかもしれない。でも高校生活の中で、私はその教えの本当の意味を少しずつ実感するようになったのだ。

最初の中間試験が近づいたころ、私は勉強に追われる日々を過ごしていた。数学の問題集を前にして、解けない問題に何度もぶつかり、焦りと不安が募っていた。何度も解こうと挑戦をしたが、解けない問題が増えるごとに自分の無力さを痛感し、「もうダメだ、こんな問題、自分に解けるわけがない」と、自分自身に苛立ち、泣きたくなることもあった。しかし、そのたびにふと思い出すのが祖父の言葉だった。「信じて待つことが大切だよ」と。

祖父の言葉を思い出し、私は一度ノートを閉じて、深呼吸をしてみた。焦っ

でも仕方がない。今は理解できなくても、自分の努力を信じて待つことを続ければいつかは分かる時が来るはずだと、自分に言い聞かせた。そして翌日、再び問題集に向き合うと、前日は理解できなかった問題が少しずつ解けるようになっていく自分に気づいた。焦りや不安を越え、信じて努力を続けることが結果を生むということ、この経験を通して初めて心から理解した。

この経験以来、私は祖父の「信じて待つ心」を日々の生活の中で実践するようになった。友人関係の中での小さなトラブルや、勉強でのスランプ、そして将来への不安など、どんな状況に直面しても、焦らずに自分を信じて待つことの大切さを学んだ。友人との関係がぎこちなくなっても、すぐに解決を求めるのではなく、時間をかけて相手の気持ちや自分の感情を整理し、自然な形で関係を修復していくことができた。これは、まさに祖父が言っていた「株価が一時的に下がっても、焦らずに待つことで、長期的には利益が得られる」という考え方と同じだと思っている。

さらに、祖父の「信じて待つ心」は、私が将来に対して抱く不安を和らげてくれる言葉でもあった。高校生活を送る中で、進路選択や自分の将来について考える機会が増え、それに伴って不安やプレッシャーも大きくなっていった。友人たちが具体的な目標を持っているのを見るたびに、自分は何をすべきかを迷い、焦りを感じることもあった。しかし、「信じて待つ心」を思い出すことで、自分のペースで進むことの大切さを再確認し、慎重に自分の道を模索することができた。将来はまだ不確定なものであるが、今を信じて努力を続けることで、必ず自分に合った道が見えてくると信じている。

祖父から学んだ「信じて待つ心」は、私の日常生活に深く根付いたが、それだけではないと思う。現代社会における自分自身のあり方についても深く考えさせられる教えだ。今の時代、情報や技術が飛躍的に進化し、スピードと効率が重視される時代であり、私たちは瞬時に情報を得て、すぐに結果を求める傾向が強くなってきている。しかし、その一方で焦りや不安からくる過剰な期待や、即座に結果を求める風潮が、私たちに大きなストレスを与えているのも事実だ。

そんな社会だからこそ、祖父の教えである「信じて待つ心」はより一層重要なのではないだろうか。情報過多で、目先の利益や成功にとらわれがちな現代人にとって、長期的な視野を持ち、自分の信じる道を歩み続けることが大切だ。

目の前の結果に一喜一憂せず、ときには立ち止まり、長い時間をかけて成果を待つ勇気を持つことこそが持続可能な成功と心の平安をもたらすのではないだろうか。

今後の自分の在り方を考えるとき、私はこの考えを柱に据えていきたいと考えている。どんなに時代が変わり、技術が進化しても、急ぐことなく自分のペースで成長し続けることが重要だ。特に将来のことや人生の選択において、焦って周りに流されるのではなく、自分が本当に感じるもの、長期的に見て人生を豊かにしてくれるものを選び取り、それに向けてじっくり取り組んでいく覚悟を持ちたいと思う。

また、現代社会の課題に対しても、祖父の教えは示唆に富んでいると感じている。例えば環境問題や社会不平等の解決には、短期的な対応だけでなく、長期的な視野に立った取り組みが求められている。目先の利益にとらわれず、次世代に持続可能な社会を引き継ぐために、私たちは時間をかけて問題解決に取り組み、その成果を信じて待つ必要がある。

そして何より、自分自身の生活を豊かにするために、「信じて待つ心」を大切にしたい。大きな目標や夢を持ちながらも、すぐに結果が出なくても自分を信じて歩み続けること。結果に焦ることなく、努力の過程を楽しみ、ゆっくりした成長を受け入れることで心の豊かさを感じながら生きていきたい。

このように、祖父から受け継いだ「信じて待つ心」は、私にとって現代社会にとっても、普遍的な価値を持つ人生をよりよい方向へ導く指針である。これからの人生の中で、この教えを胸に刻み、自分のペースで歩みながら、持続可能な未来を見据えた生き方を貫いていきたいと強く思う。